

特集

アイスクリーム・氷菓の輸出

- ★2022年は輸出数量、金額ともに過去最大！
- ★台湾をはじめアジアへの輸出が約8割を占める！
- ★東京港が輸出数量、金額ともに全国シェアトップ！



令和5年9月22日
東京税関

はじめに


暦の上では季節は秋となりましたが、残暑も厳しくアイスクリームがまだまだ恋しいですね。アイスクリームや氷菓といえば日本では古くは氷室に保管した氷を貴族が楽しむといった大変貴重なものだったようですが、明治時代初めに「あいすくりん」と呼ばれるアイスクリームが販売されてからは、徐々に庶民でも楽しめるようになりました。現在では様々な味や形状があり、冷凍庫などで保存状態が保てることからいつでも楽しめて、幅広い世代に愛されています。

アイスクリーム・氷菓は、2022年の輸出数量、金額がともに過去最大となり、港別では東京港が輸出数量、金額ともに全国で1位となりました。

東京税関では、今回と同じアイスクリーム・氷菓の輸出について7年前の2016年2月発行の特集記事にてご紹介したことがありますが、その時は2015年とその10年前の2005年とを比較し、輸出金額が約4倍と大きく増加していました(右に当時記事の一部引用)が、今回改めて動向を調査したところ、2022年とその10年前の2012年との比較ではさらに大きく増加していたことから、再度アイスクリーム・氷菓の輸出にスポットを当て今回の特集を作成いたしました。

2016年2月の特集記事から引用

特集



アイスクリーム・氷菓の輸出

平成28年2月26日
東京税関

2015年の輸出額は過去最大で、10年前(2005年)の約4倍。

輸出数量・金額は2014年から急増、4年連続の増加。
月別では、毎年3月～4月が輸出のピーク。
東京税関管内が輸出額の3割を占め、全国税関で1位。

はじめに

財務省の貿易統計を基に、平成28年2月に農林水産省が発表した「平成27年農林水産物・食品の輸出実績」によれば、昨年の農林水産物・食品の輸出額は7,452億円(前年比21.8%増)で、過去最高となりました。この発表によれば、アジアを中心に海外で日本食の人気の広がっていることや、円安で日本産に割安感が出ていることなどが増加の要因とされているようです。

輸出が増えている品目としては、海産物や農畜産物がありますが、当回の分析によればこれらの品目以外でも、近年輸出が急激に増えている品目があります。

その中でも、特にこれからの春の時期に輸出が増える品目として、「アイスクリーム・氷菓」があります。

「アイスクリーム・氷菓」の輸出数量・金額については、2014年から急増しており、2014年は数量・金額共に前年比で8割以上増加しました。

2015年についても、引き続き増加しており、輸出量は3,545トン(前年比17.4%増)、輸出額は約20億円(前年比26.4%増)で、数量・金額共に過去最大となりました。

今回は、2014年から輸出が急増している「アイスクリーム・氷菓」にスポットを当ててみました。

本特集の「アイスクリーム・氷菓」は、輸出統計品目番号 2105.00 に分類されるものについてまとめたものです。

ここには、ミルク又はクリームをもととして調製されたアイスクリーム及びその他の氷菓(シャーベット、アイスキャンディー等)が含まれます。

本特集の「アイスクリーム・氷菓」は、輸出統計品目番号 第2105.00号 に分類されるものについてまとめたものです。

ここには、ミルク又はクリームをもととして調製されたアイスクリーム及びその他の氷菓(シャーベット、アイスキャンディー等)が含まれます。

本特集の輸出数量及び金額について、2021年以前は確定値、2022年は確々報値、2023年1～7月は確報値です。

年別輸出動向

右の図は、2005年からのアイスクリーム・氷菓の年別輸出動向(上図・全国、下図・東京税関管内)を示しており、順調に伸びていることがわかります。2022年は全国で輸出数量が約8,462トン、金額が約65億円で輸出の数量及び金額がともに、確認できる1979年以降において過去最大を記録しています。

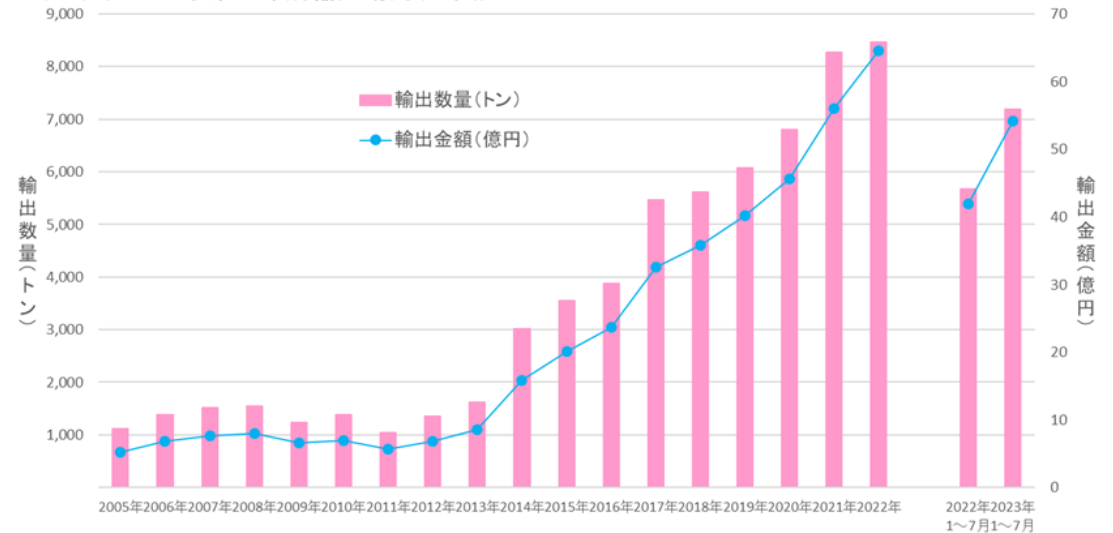
2023年に入っても、輸出数量、金額ともに前年同期の数値を上回る輸出が続いています。

ちなみに前回特集の2015年は、全国で輸出数量が約3,545トン、輸出金額が約20億円でした。これと比較すると、2022年は輸出数量が約2.4倍、輸出金額が約3.2倍となっています。

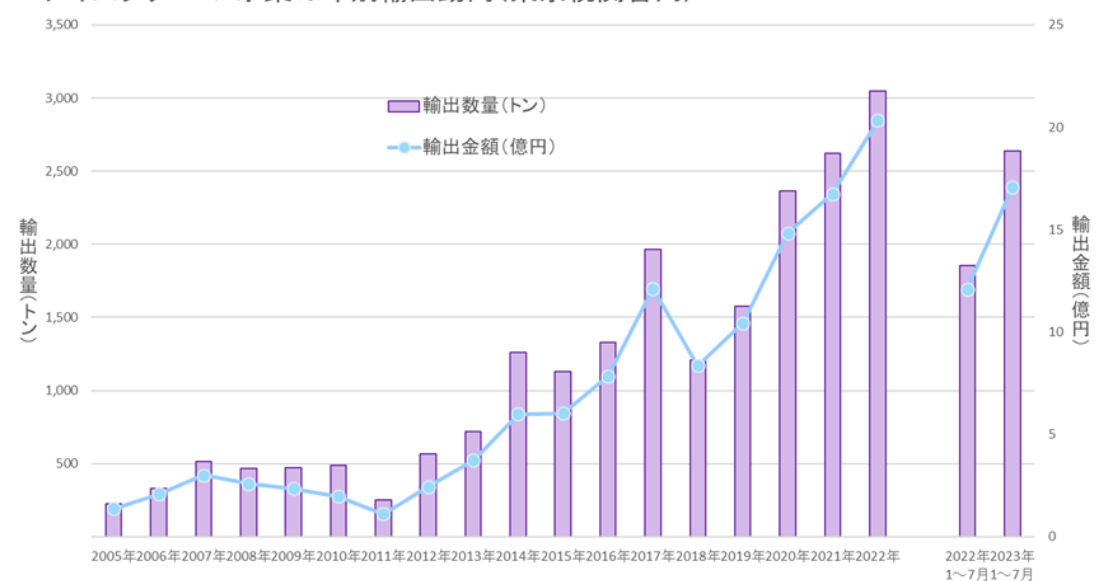
また、前回の特集は、2015年と2005年の比較を行っていますが、2005年においては輸出数量が約1,121トン、輸出金額約5億円であり、これを2022年と比較すると輸出数量は約7.6倍、輸出金額については約12.4倍となり、2005年から17年が経ち前回特集時よりも輸出が大きく伸びておりアイスクリーム・氷菓の輸出市場が活況にあることがわかります。

東京税関管内においても2022年は過去最大の輸出数量及び金額を記録しており、輸出数量は約3,045トン、輸出金額が約20億円でした。全国と同様に東京税関管内においても2023年に入り、輸出数量、金額ともに前年同期の数値を上回る輸出が続いています。

アイスクリーム・氷菓の年別輸出動向(全国)



アイスクリーム・氷菓の年別輸出動向(東京税関管内)

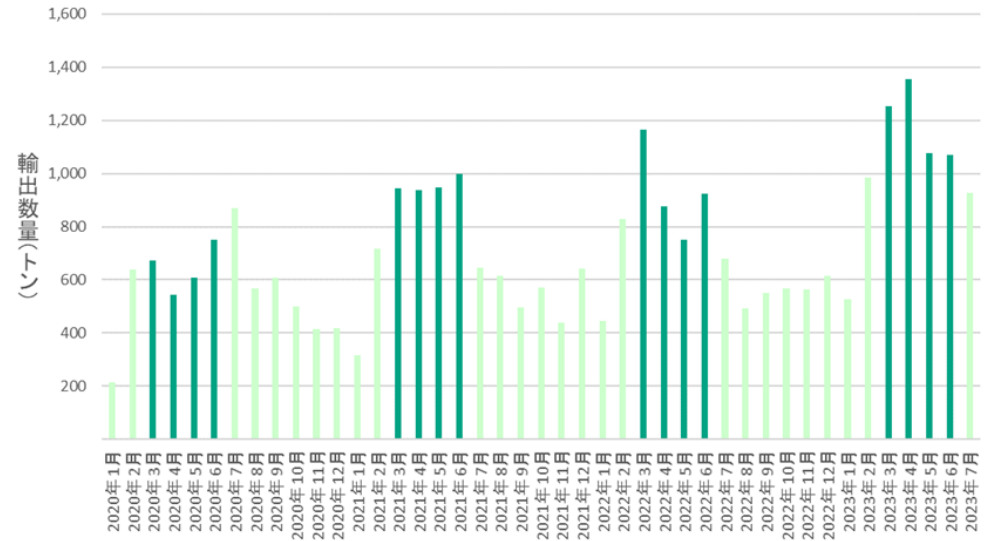


月別輸出動向

右上の図は、全国でのアイスクリーム・氷菓の月別輸出数量の推移です。毎年3月頃から輸出数量が増加し6月頃までがピークとなっています。

アイスクリームや氷菓は、日本アイスクリーム協会によりますと、季節の違いによる嗜好の差が仕向先に現れているようだが、図において一定周期で右肩上がりの傾向を呈していることから外国において日本産アイスクリームの受容性が確実に上がっているのではないかとのことです。

アイスクリーム・氷菓の月別輸出数量の推移(全国)



10年前との比較(税関別輸出実績推移)

右下の図はアイスクリーム・氷菓の10年前と現在の輸出数量及び金額を税関別に比較したものです。

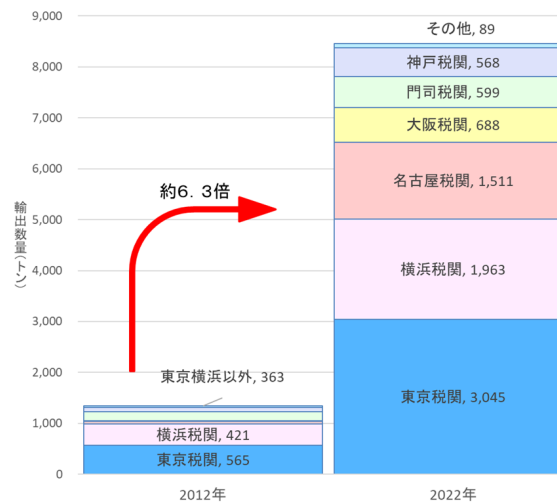
まず税関別輸出数量推移において、2012年と2022年とで比較すると2012年は全国で約1,349トンであった輸出数量が10年経った2022年になると全国で約8,462トンとなり、約6.3倍となっていることがわかります。

また、金額推移では2012年は全国で約6億79百万円でしたが、2022年になると全国で約64億51百万円となり、約9.5倍となっております。

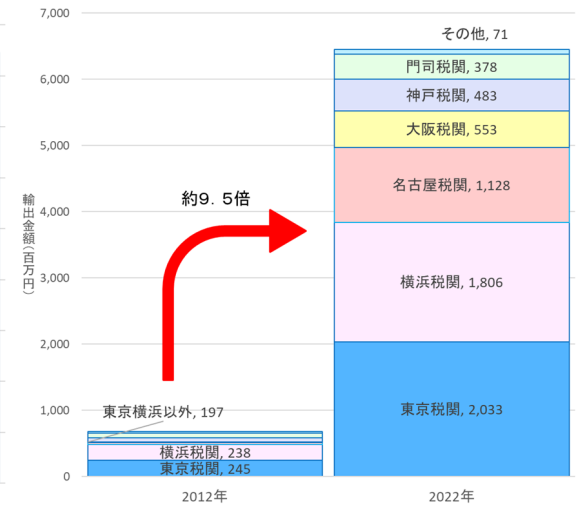
2012年時点で、東京税関と横浜税関以外の税関はさほど、輸出数量や輸出金額が多くはなかったのですが、2022年になると先の2税関以外の名古屋税関、大阪税関、門司税関、神戸税関などでも輸出数量及び輸出金額が増えたことがわかります。

これは日本アイスクリーム協会によりますと東京や横浜の京浜港以外でも売れ筋商品の販路が確立したためではないかとのことです。

税関別輸出数量推移(2012年と2022年の比較)



税関別輸出金額推移(2012年と2022年の比較)

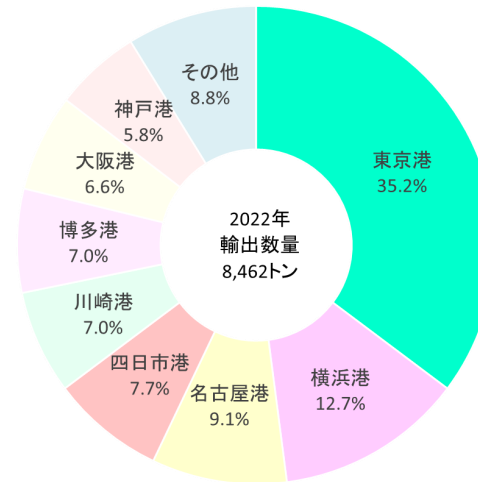


港別輸出実績

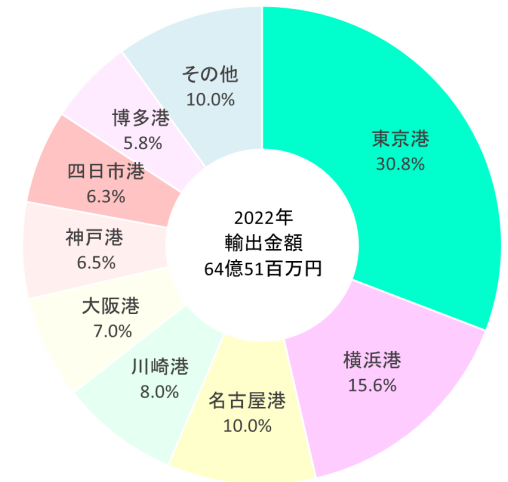
2022年における港別構成比(左:輸出数量、右:輸出金額)を見ると、国内の港では東京港がいずれも1位となっています。2位以降は横浜港、名古屋港と続いています。左右いずれの図においても上位8位までの港を見ると全て海港となっています。

特に京浜港(東京港、横浜港、川崎港)に輸出が集中しているのは、日本アイスクリーム協会によるとアイスクリーム・氷菓の大手製造メーカーが東京港や横浜港近辺に工場や冷凍倉庫を他のエリアよりも比較的多く設置しており保管面及び輸送コスト面でメリットがあるためと考えられるとのことです。そのため、工場や冷凍倉庫から近い海港からの輸出が主となるのではないかとのことです。

港別構成比(輸出数量)2022年



港別構成比(輸出金額)2022年

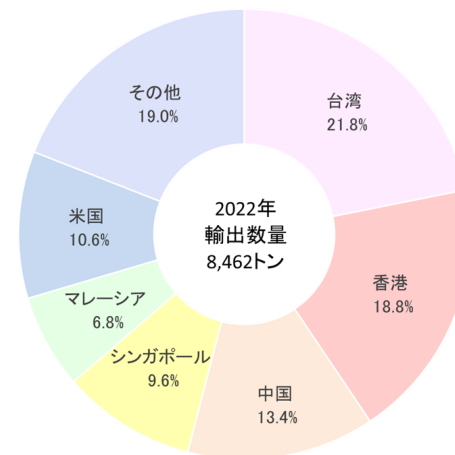


国・地域別輸出実績

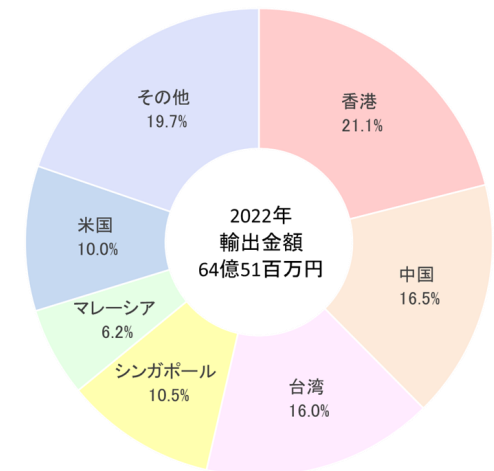
2022年における国・地域別構成比(左:輸出数量、右:輸出金額)を見ると輸出数量及び金額ともに台湾・香港・中国の3つの国・地域で50%以上を占めています。日本アイスクリーム協会によりますと、これらの国・地域に対して販路を確立するための取り組みが古くから行なわれてきた結果であると考えられるとのことです。

アジア以外では米国向け輸出が約10%ありますが、日本アイスクリーム協会によりますと北米では豆を甘くして食べる習慣がないにもかかわらず、健康志向から小豆を使ったアイスが人気となり販路が拡大した影響が強いと考えられるとのことです。

国・地域別構成比(輸出数量)2022年



国・地域別構成比(輸出金額)2022年



(豆知識1)アイスクリーム頭痛とは

例えば冷たいものを食べたときに「キーン」とくる頭痛は、医学的な正式名称で「アイスクリーム頭痛」と呼ばれるそうです。

原因は

- ① 冷たいものがのどを通るときに、のどにある三叉(さんさ)神経が刺激されて、その伝達信号を脳が痛みと錯覚して頭痛が起きる。
- ② 冷たいものを食べると急にのどや口の中が冷えるため、人間の体は一時的に血流量を増やして温めようとするが、そのときに脳につながる血管も膨張して頭痛が起きる。

これらがもとで「アイスクリーム頭痛」が発生すると考えられているようです。

予防法としては急いで食べないということに尽きるようです。アイスクリーム頭痛を起こさないためにアイスクリームや氷菓はゆっくり味わって食べましょう！

(出典:日本アイスクリーム協会ホームページ)



(豆知識2)家庭での保存方法

日本アイスクリーム協会によりますと家庭用冷蔵庫にある冷凍庫は開閉回数が多いことで冷凍庫内の温度が上昇し、アイスクリーム・氷菓の保存には適さない状態となるため、基本的には保存をせずに購入したらすぐに食べてほしいとのこと。

でも購入してからすぐに食べるのは現実的には難しいときもありますよね。

そこで家庭での保存方法について日本アイスクリーム協会の方に聞いてみました。

まずは冷凍庫が数段に分かれているようであれば一番下の段に置いてほしいとのこと。これは冷気が下の方に流れていくためです。

次に冷凍庫に空きを作らないでほしいとのこと。空きが多くなると空気の部分が増えるため庫内の温度が開閉時に上がりやすくなってしまい冷凍効率が下がるためです。

また劣化を防ぐためにはラップで包むのもありとのこと。これはアイスクリームには乳成分が入っており酸化や匂い移りがしやすいのでラップで包むと劣化を防ぐことができます。

これらを守ることで保存状況は改善されるとのこと。ぜひお試しあれ。



(豆知識3)5月9日はアイスクリームの日

日本にはいろんな記念日がありますよね。毎日様々な記念日がある中、日本アイスクリーム協会に確認したところ、今回特集したアイスクリームにも記念日がありました。毎年5月9日がアイスクリームの日となっています。

さかのぼること1964年(昭和39年)5月9日、東京アイスクリーム協会(現:一般社団法人 日本アイスクリーム協会)は、アイスクリームの需要が高まり始める5月の大型連休明けに合わせて、この日を「アイスクリームデー」とし、都内の施設や病院などにアイスクリームを寄贈するほか、記念式典を開催しました。

以降、5月9日を「アイスクリームの日」と定め、毎年、この日を中心に各地でイベントを実施し、アイスクリームの普及活動を行っているとのこと。

2023年もアイスクリームフェスタが全国6都市(札幌、東京、名古屋、大阪、広島、福岡)で開催されました。

終わりに

近年、全国で輸出が活況な「アイスクリーム・氷菓」ですが、日本アイスクリーム協会では日本のアイスクリーム・氷菓は食べたいときに食べられるサイズ感が海外で非常に受けているのではないかとのことでした。

アイスクリーム・氷菓は、2022年のアイスクリーム白書によると「好きなスイーツ」でナンバーワンであり、何年も連続で「好きなスイーツ」1位を続けています(右上の表:日本アイスクリーム協会調べ)。

これから冬場に向かっていきますが、同白書の中でも15℃くらいになると温かい飲み物が欲しくなる傾向(右中の表:同協会調べ)にあるとのことですが、それでも外の寒いところから暖かい部屋に入って食べるアイスクリームってなぜか美味しく感じますよね。

季節を問わずアイスクリームは美味しく、同白書の中でも気分を前向き・ポジティブにしたい理由で食べる人が多いとのこと(右下の図:同協会調べ)なので、寒い季節に入っても食べて気分を盛り上げていきましょう。

好きなスイーツ/デザート (順位)

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|-------|---------|-------------|-------------|-------------|-----------|
| 2022年 | アイスクリーム | ケーキ・シュークリーム | チョコレート | プリン・ゼリー | 和菓子 |
| 2021年 | アイスクリーム | ケーキ・シュークリーム | チョコレート | プリン・ゼリー | 和菓子 |
| 2020年 | アイスクリーム | ケーキ・シュークリーム | チョコレート | プリン・ゼリー | 和菓子 |
| 2019年 | アイスクリーム | ケーキ・シュークリーム | チョコレート | プリン・ゼリー | 和菓子 |
| 2018年 | アイスクリーム | ケーキ・シュークリーム | チョコレート | 和菓子 | プリン・ゼリー |
| 2017年 | アイスクリーム | ケーキ・シュークリーム | チョコレート | 和菓子 | プリン・ゼリー |
| 2016年 | アイスクリーム | コーヒー・紅茶・ココア | ケーキ・シュークリーム | チョコレート | ヨーグルト |
| 2015年 | アイスクリーム | チョコレート | ケーキ・シュークリーム | コーヒー・紅茶・ココア | 菓子パン・ドーナツ |

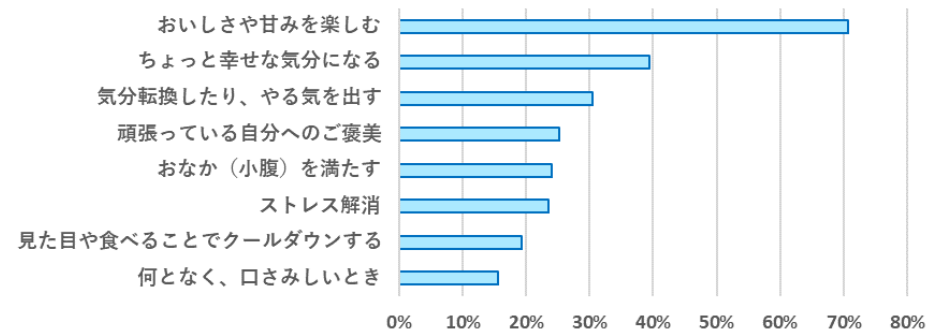
出典:アイスクリーム白書2022(一般社団法人 日本アイスクリーム協会)

気温によるアイスクリーム・氷菓・飲み物の嗜好性(複数回答)

| | 濃厚な味のアイス | さっぱりしたアイス | かき氷 | 冷たい水・お茶飲料 | スポーツ・炭酸飲料 | 温かいコーヒー・紅茶・お茶 | その他 |
|-----------|----------|-----------|------|-----------|-----------|---------------|-----|
| 15℃くらいのとき | 49.7 | 11.9 | 4.6 | 11.6 | 6.4 | 58.9 | 0.6 |
| 20℃くらいのとき | 49.1 | 24.8 | 5.4 | 25.5 | 13.4 | 33.3 | 0.5 |
| 25℃くらいのとき | 39.2 | 52.2 | 17.5 | 43.1 | 20.8 | 8.6 | 0.4 |
| 30℃くらいのとき | 29.1 | 57.6 | 39.4 | 45.7 | 28.4 | 4.6 | 0.4 |
| 35℃くらいのとき | 23.6 | 50.4 | 51.9 | 46.4 | 30.5 | 3.9 | 0.6 |

出典:アイスクリーム白書2022(一般社団法人 日本アイスクリーム協会)

アイスクリームを食べる理由(複数回答)



出典:アイスクリーム白書2022より一部抜粋(一般社団法人 日本アイスクリーム協会)

【資料編】

年別輸出数量・金額の推移(2005年－2022年)(全国)

| 年 | 輸出数量(KG) | | 輸出金額(千円) | |
|-------|-----------|--------|-----------|--------|
| | | 前年比 | | 前年比 |
| 2005年 | 1,120,532 | 104.5% | 518,928 | 101.0% |
| 2006年 | 1,390,095 | 124.1% | 687,567 | 132.5% |
| 2007年 | 1,513,081 | 108.8% | 767,128 | 111.6% |
| 2008年 | 1,544,772 | 102.1% | 795,489 | 103.7% |
| 2009年 | 1,234,055 | 79.9% | 658,518 | 82.8% |
| 2010年 | 1,381,664 | 112.0% | 691,360 | 105.0% |
| 2011年 | 1,035,491 | 74.9% | 563,172 | 81.5% |
| 2012年 | 1,348,786 | 130.3% | 679,440 | 120.6% |
| 2013年 | 1,614,701 | 119.7% | 860,326 | 126.6% |
| 2014年 | 3,018,361 | 186.9% | 1,588,750 | 184.7% |
| 2015年 | 3,544,666 | 117.4% | 2,008,417 | 126.4% |
| 2016年 | 3,873,943 | 109.3% | 2,364,604 | 117.7% |
| 2017年 | 5,461,608 | 141.0% | 3,256,088 | 137.7% |
| 2018年 | 5,612,319 | 102.8% | 3,577,697 | 109.9% |
| 2019年 | 6,078,191 | 108.3% | 4,022,912 | 112.4% |
| 2020年 | 6,805,506 | 112.0% | 4,561,076 | 113.4% |
| 2021年 | 8,267,549 | 121.5% | 5,596,562 | 122.7% |
| 2022年 | 8,462,141 | 102.4% | 6,450,762 | 115.3% |

2022年(1～7月)と2023年(1～7月)の比較(全国)

| 年 | 輸出数量(KG) | | 輸出金額(千円) | |
|-----------|-----------|--------|-----------|--------|
| | | 前年同期比 | | 前年同期比 |
| 2022年1～7月 | 5,671,774 | 103.0% | 4,196,251 | 114.7% |
| 2023年1～7月 | 7,192,545 | 126.8% | 5,414,450 | 129.0% |

月別輸出数量(2020年－2023年7月)(全国)

| 2020年 | | 2021年 | | 2022年 | | 2023年 | |
|----------|---------|----------|---------|----------|-----------|----------|-----------|
| 年月 | 輸出数量 | 年月 | 輸出数量 | 年月 | 輸出数量 | 年月 | 輸出数量 |
| 2020年 1月 | 213,822 | 2021年 1月 | 317,008 | 2022年 1月 | 444,541 | 2023年 1月 | 525,474 |
| 2月 | 639,908 | 2月 | 717,581 | 2月 | 830,398 | 2月 | 984,977 |
| 3月 | 672,421 | 3月 | 944,707 | 3月 | 1,165,691 | 3月 | 1,251,649 |
| 4月 | 542,014 | 4月 | 936,643 | 4月 | 877,824 | 4月 | 1,355,863 |
| 5月 | 606,849 | 5月 | 946,818 | 5月 | 750,341 | 5月 | 1,077,915 |
| 6月 | 752,406 | 6月 | 999,470 | 6月 | 924,495 | 6月 | 1,070,395 |
| 7月 | 868,966 | 7月 | 644,672 | 7月 | 678,484 | 7月 | 926,272 |
| 8月 | 568,733 | 8月 | 614,730 | 8月 | 494,172 | | |
| 9月 | 608,470 | 9月 | 495,504 | 9月 | 549,754 | | |
| 10月 | 498,421 | 10月 | 570,555 | 10月 | 567,657 | | |
| 11月 | 414,127 | 11月 | 438,516 | 11月 | 565,259 | | |
| 12月 | 419,369 | 12月 | 641,345 | 12月 | 613,525 | | |

年別輸出数量・金額の推移(2005年－2022年)(東京税関管内)

| 年 | 輸出数量(KG) | | 輸出金額(千円) | |
|-------|-----------|--------|-----------|--------|
| | | 前年比 | | 前年比 |
| 2005年 | 224,335 | 67.7% | 138,420 | 66.5% |
| 2006年 | 332,517 | 148.2% | 208,182 | 150.4% |
| 2007年 | 512,981 | 154.3% | 300,109 | 144.2% |
| 2008年 | 465,515 | 90.7% | 259,977 | 86.6% |
| 2009年 | 474,910 | 102.0% | 234,499 | 90.2% |
| 2010年 | 487,984 | 102.8% | 196,915 | 84.0% |
| 2011年 | 249,470 | 51.1% | 111,155 | 56.4% |
| 2012年 | 564,587 | 226.3% | 244,926 | 220.3% |
| 2013年 | 720,341 | 127.6% | 373,931 | 152.7% |
| 2014年 | 1,258,081 | 174.7% | 599,011 | 160.2% |
| 2015年 | 1,130,302 | 89.8% | 603,003 | 100.7% |
| 2016年 | 1,331,072 | 117.8% | 785,226 | 130.2% |
| 2017年 | 1,962,850 | 147.5% | 1,211,978 | 154.3% |
| 2018年 | 1,208,645 | 61.6% | 836,273 | 69.0% |
| 2019年 | 1,574,326 | 130.3% | 1,044,768 | 124.9% |
| 2020年 | 2,365,370 | 150.2% | 1,482,824 | 141.9% |
| 2021年 | 2,623,985 | 110.9% | 1,675,051 | 113.0% |
| 2022年 | 3,044,634 | 116.0% | 2,033,293 | 121.4% |

2022年(1～7月)と2023年(1～7月)の比較(東京税関管内)

| 年 | 輸出数量(KG) | | 輸出金額(千円) | |
|-----------|-----------|--------|-----------|--------|
| | | 前年同期比 | | 前年同期比 |
| 2022年1～7月 | 1,853,024 | 123.4% | 1,208,345 | 127.6% |
| 2023年1～7月 | 2,638,180 | 142.4% | 1,708,840 | 141.4% |

港別輸出数量・金額(2022年)

| 港 | 輸出数量(KG) | 輸出金額(千円) |
|------|-----------|-----------|
| 東京港 | 2,982,249 | 1,988,247 |
| 横浜港 | 1,074,682 | 1,004,267 |
| 名古屋港 | 773,615 | 646,851 |
| 四日市港 | 650,208 | 409,245 |
| 川崎港 | 594,172 | 516,281 |
| 博多港 | 593,802 | 373,759 |
| 大阪港 | 556,144 | 449,536 |
| 神戸港 | 493,084 | 420,415 |
| その他 | 744,185 | 642,161 |
| 計 | 8,462,141 | 6,450,762 |

国(地域)別輸出数量・金額(2022年)(全国)

| 国(地域) | 輸出数量(KG) | 輸出金額(千円) |
|--------------|-----------|-----------|
| 台湾 | 1,848,142 | 1,033,961 |
| 香港 | 1,586,767 | 1,358,261 |
| 中国 | 1,137,228 | 1,065,760 |
| シンガポール | 813,295 | 674,753 |
| マレーシア | 572,152 | 398,540 |
| その他のアジア | 751,974 | 537,265 |
| 米国 | 893,003 | 646,941 |
| その他(アジアを含まず) | 859,580 | 735,281 |
| 計 | 8,462,141 | 6,450,762 |

(参考)2012年と2022年の比較(全国)

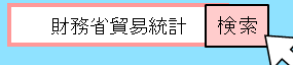
| 年 | 輸出数量(KG) | 2012年を100%とすると | |
|-------|-----------|----------------|-----------|
| | | 輸出数量(KG) | 輸出金額(千円) |
| 2012年 | 1,348,786 | 100.0% | 679,440 |
| 2022年 | 8,462,141 | 627.4% | 6,450,762 |

取材協力:一般社団法人 日本アイスクリーム協会

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。
東京税関 調査部 調査統計課 TEL:050-5533-6995

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。



東京税関

〒144-8616 東京都大田区羽田空港2-6-3 羽田税関支署貨物合同庁舎
http://www.customs.go.jp/tokyo/